

論文の内容の要旨

氏名：林 伸 樹

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：子宮頸癌の早期診断マーカーとしての血清遊離脂肪酸測定の有用性の検討

目的

本邦における子宮頸癌の罹患率は、生殖年齢女性を中心に増加傾向にある。SCC および CEA などの腫瘍マーカーが臨床的に用いられているが、感度が低いのが現状である。そこで、早期診断が可能な新規腫瘍マーカーを検討することを目的とした。

方法

子宮頸癌（CxCa）52 例、CIN3 19 例、健常女性 27 例の 3 グループから血液サンプルを採取した。血清から遊離脂肪酸（FFA）を抽出し、ガスクロマトグラフィー質量分析器（GC-MS）により定量した。統計学的検討により、脂肪酸値の組み合わせによる、最適な診断モデルを構築した。統計解析は、Mann-Whitney U 検定および Receiver Operating Characteristic (ROC) 解析により行った。

結果

19 種類の FFAs のうち、11 種類の FFAs の量が CxCa 群と健常群との間で有意に異なっていた。また、10 種類の FFA の ROC 曲線下面積（AUC）は 0.7 以上であった（ $P < 0.05$ ）。さらに、脂肪酸値の組み合わせにより、最適な診断モデルを同定し、そのモデルを用いた場合、子宮頸がんにおける陽性率は 93.1% であった。一方、SCC、CEA の陽性率は 83.3%、11.1% であった。また、6 種類の FFA が CIN3 と健常者の間で有意な変化を示した。

結論

本研究では、子宮頸癌および CIN3 における FFA 代謝の特徴を明らかにした。血清 FFA は子宮頸癌の早期発見のための新しい腫瘍マーカーとなる可能性がある。